

第 3 回いなべ市行政改革推進委員会 会議概要

日時・場所	平成 23 年 8 月 8 日 午後 2 時から 員弁庁舎第 7 会議室
出席者	委員：11 名出席（丸山康人、東川薫、伊藤隆、児玉正光、市川榮司、西村貴樹、矢野清久、佐々木広視、稲葉淑乃、畑中准子、近藤節子）以上敬称略 説明者側：行政改革本部員：4 名（総務部長、福祉部長、企画部長、農林商工部部長） 事務局：9 名（政策課、長寿介護課、人権福祉課、南地域包括支援センター）
会議次第	1 会長あいさつ 2 審議事項 今後のスケジュールについて 資料 1 いなべ市の現在の見守り体制 資料 2 高齢者を取りまく福祉課題 資料 3 先進事例：共助の取り組み「絆の再生」 資料 4 意見交換 3 その他 次回の開催について 11 月を予定
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1：今後のスケジュールについて ・資料 2：いなべ市の現在の見守り体制 ・資料 3：高齢者を取りまく福祉課題について ・資料 4：先進地事例の紹介(安城市、駒ヶ根市、ご近所福祉、うちの実家等)
審議の概要	<p>審議事項（以下 印は委員長、 印は委員発言、 印は事務局発言）</p> <p>委員長あいさつ</p> <p>資料 1 により今後のスケジュールを政策課長より説明 第 4 回で答申案を示し、第 5 回で答申を行いたい。 大変タイトなスケジュールですのでよろしくお願いします。</p> <p>資料 2 によりいなべ市の現在の見守り体制を南地域包括支援センターより説明 説明で示された図がわかりづらい。</p> <p>答申案をまとめる際には、図の見せ方を工夫してください。</p> <p>資料 3 により高齢者を取り巻く福祉課題を長寿介護課課長補佐より説明 自助・共助・公助の課題を説明。</p> <p>資料は自助・公助・共助の順番で整理をされていますが、一般的には、自助があつて共助があり、自助と共助を支援するかたちで公助があるので、答申案では、自助・共助・公助の関係性がわかるように並びを工夫してください。</p>

平常時よりの災害時の公助の支援が重要ではないか。

阪神淡路大震災の際には、むしろ公助よりも共助が機能したという調査結果もあるので、災害時こそ共助が重要になってくる。このあたりも答申に織り込んで下さい。

資料4により、先進事例：共助の取り組み「絆の再生」を南地域包括支援センター特命監より説明

昔あった婦人会組織の再生などが必要ではないか

それぞれの団体や庁舎内の組織がバラバラに行っている活動で得られた情報を共有するようなネットワーク化が必要である。

阪神淡路大震災時には自助しか機能しなかったとの報告もある。共助を行う場合でも、要援護者がどこにいるのかの情報があると活動が行いやすくなるのではないか。

地域の特性にあわせた支援策を検討して下さい。その検討結果が、より実効性のある計画につながります。

いなべ市が取り組んでいくことの内容は、目的と手段が並列に列挙されているので関係性を整理して下さい。

公助と共助が協働したまちの表現は少し考えて下さい。